

二〇二二年度 聖ドミニコ学園中学校入学試験（第1回）

# 国語 50分

◎ 次の注意事項（しごとう）を読んでください。

- 1 試験開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 2 問題は全部で9ページあります。
- 3 解答用紙は問題用紙にはさんであります。
- 4 解答用紙に受験番号、氏名を書いてください。
- 5 答えはすべて解答用紙に書いてください。
- 6 字数は、句読点（くつとくてん）や「」など記号もすべて一字に数えます。



【一】次の~~~~線の漢字は読み方をひらがなで答え、——線のカタカナは漢字に直しなさい。

- ① 新あらたしい記録を樹たて立たする。
- ② 無む益えきな戦いくさいはやめよう。
- ③ クラスの賞しょう賛さんを浴あびびる。
- ④ 大学をシユセキで卒業する。
- ⑤ シソンの繁はん栄えいを願いのって祈いのる。
- ⑥ お墓はかにたくさんの花はなをソナえる。
- ⑦ はがきにユウビン番ばん号ごうを書く。
- ⑧ 彼かれはお兄あにさんとよくニにている。
- ⑨ ニユウヨウジのおもちや。
- ⑩ 日ひがクくれるのを待まちっている。
- ⑪ 立たち入いってはいけないリヨウイキ。
- ⑫ 会かい議ぎの時間じかんがエンエンチヨウイキイキされた。
- ⑬ 次のナイカク総そう理り大臣だいじんを決きめる選せん挙きょ。
- ⑭ 思おもっていたよりもヤサヤサしい問題もんだいだった。
- ⑮ タイシユウの前まえで演えん説せつをする。
- ⑯ スノウを生なまかして謎なぞを解とく。
- ⑰ おいしい食しょく事じは力ちからのミナモトだ。
- ⑱ 虫むし眼鏡めがねでカクダイして観くわん察さつする。
- ⑳ チヨサク権けんは守まもらなければならぬ。  
新あらたしい雑ざつ誌しがハツカンハツカンされる。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本人は、①いま、若い人を中心に、食べものの価値判断をお金ですることが多く、安いものはいいことだとばかりにそれを買って食べる傾向が②ひじょうに多い、と私は見えています。これは正しいことなんでしょうか。③

ここではまず、サケの話をしましょう。

いま世界でいちばん安心・安全でおいしいサケはこのものではないか。それは、北海道や東北地方、新潟県、茨城県などの川にさかのぼるサケが世界一安心でおいしいといわれています。日本では、人工ふ化した稚魚を川に放流し、それらがベーリング海で育ち、三〇五年したものが生まれ故郷の湾にもどってきて、川へのぼって④って産卵するわけです。ベーリング海で大きくなったものが、生まれ故郷の日本の川に遡上してきますから、稚魚を放流したものといつても、ほとんど自然条件で育ったサケなのです。⑤、放流した稚魚のうちで、大きくなって帰ってくるのは⑥にも達しないといわれています。

⑦、日本のサケ漁師は「これから川に産卵に行くサケだから、真水を吸っちゃうまくねえんだ。その前に獲らねば」といって、わざわざ⑧河口付近や前浜に出てサケを獲ります。⑨、日本のサケは世界一おいしいのです。そして安心・安全だといわれている

ます。

ところがいま、これを日本人はあまり食べなくなったのです。そのため、根室や釧路、その他のサケ業者がいま、⑩ほとんど廃業しています。

いちばん多いのがチリの養殖サケです。みなさんがサケの弁当やサケのおにぎりを買ったなら、その表示を見てください。「⑪（チリ）」と書いてあるのがとても多いのに気づくはずですよ。チリでもノルウエーでも、サケを生簀で飼っているところが多いです。つまり養殖サケです。日本のように小さな稚魚を海に放すのではなく、生簀の中で餌を与えながら大きくしています。こうすれば獲りにくい手間がかからないし、⑫回帰率一〇〇%ですから、ひじょうに安いサケを育てることができるのです。

しかし、⑬リスクもあります。それは、生簀の中で飼っているの、たとえば一匹が病気にかかれば、伝染して全滅する可能性があります。そのため、餌や水に大量の抗生物質を入れたりして⑭発病を防ぐ必要があるのです。前にもお話ししましたが、いまから五年くらい前、輸入されてきた外国産の養殖サケに抗生物質が大量に入っているということがわかり、一度、輸入をストップしたことがあります。それがまた入ってきているのですが、いまは大丈夫なんでしょうか。

とにかく、そういうものを日本人は「安い、安い」と言って買  
うのです。毎日サケを食べるのなら、安いほうがいいでしょうが、毎  
日塩サケを食べていたら、血圧が上がってしまいますね。4

そうではなくて、たまに食べるのですから、一切れ二〇円ぐらい  
高くても、日本の安心・安全でおいしいサケを食べるべきだと私は  
思います。でも、現実には日本人が(3)それを食べていないものだか  
ら、北海道の大きな冷凍庫がサケでいっぱいになりました。売れな  
いのは何百トンもサケをもちかかえていると、毎月何十万円、何百  
万円という冷凍庫代がかかります。(4)それによってもちこたえられ  
ないサケ業者が倒産することになります。5

この状況を見て、中国の船がいま根室、釧路あたりへ来て、日  
本人が食べない世界一安心・安全でおいしいサケを、売れなくて余  
っているのだから、格安で買っていきます。そして中国では、それ  
を原料にしておいしいサケ缶をつくり、「メイド・イン・チャイナ  
の世界一おいしいサケ缶」だといって、ヨーロッパやアメリカに輸  
出したりしているということです。

つまり、こんなことを日本人はしているのです。安心・安全で  
おいしい、日本人のためのサケは、日本人が食べないので中国にい  
ってしまいます。逆に日本人は、安全面やおいしさの点で大丈夫  
かなというサケを、安いという理由だけで買って食べているのです。

日本人はこういう情けない民族になったということを実感としてと  
らえて、自分たちとしてどうすればいいのかを考えなくてはいいけま  
せん。

安いことはいいいことかもしれませんが、それでは食べものを選ぶ  
ほんとうの基準が何なのかという   を失ってしまう危険があ  
るのです。これはサケだけの問題ではなく、ほかのいろいろな食べ  
ものでも、その判断を失えば取り返しのつかないことがおきる可能  
性があるからです。とにかく、(3)食べもの選択基準がいまの日本  
人はおかしくなっています。大人だけではなく、若い人ほど「安け  
ればいい」という食べものに対する価値観をもっているように、私  
には見えます。それは食べものについてだけにとどまりません。食  
べるということは、生きていくための多くの選択基準をしつかり身  
につけておくための原点でもあるからです。みなさんも、ぜひこの  
あたりを考えてほしいものです。

(小泉武夫『いのちをはぐくむ農と食』)

(注)「いま」…この文章は二〇〇八年に出版された書籍から引用  
したので、本文中の「いま」とは、当時からそれ以前の時点  
を指します。本文に書かれている社会の状況と、二〇二一年  
現在の状況とは異なる場合があります。

問一 ―線①「これは正しいことなのか」について次の  
I、IIに答えなさい。

I 「これ」が指している内容を17字で探し、最初の9字をぬき出しなさい。

II 筆者がこのように問題提起をするのはなぜですか。「食べる」ということに関する筆者の考えが最も簡潔に表れている50字程度の一文を探し、最初の9字をぬき出しなさい。

問二 ―線(1)「河口」、(2)「発病」の熟語の構成の説明として適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 反対や対になる意味の字を組み合わせたもの〈例 天地〉

イ 同じような意味の字を組み合わせたもの〈例 飲食〉

ウ 上の字が下の字の意味を説明(修飾)しているもの〈例 青空〉

エ 下の字から上の字へ返って読むと意味がよくわかるもの〈例 消火〉

問三 

A
---

から一つ選び、記号で答えなさい。  

C
---

に入る語の組み合わせとして適当なものを次

ア A…または B…そして C…つまり

イ A…しかし B…さらに C…だから

ウ A…なぜなら B…では C…あるいは

エ A…ただし B…むしろ C…さて

問四 次の段落は、

1
---

から

5
---

のどこかに入ります。適当な場所を一つ選び、1～5の番号で答えなさい。

では、日本人はなぜ、こんなに安心・安全でおいしいサケを食べなくなつたのでしょうか。それは、安価な養殖サケが大量に外国から入ってきているからなのです。

問五 ―線②「リスク」とありますが、それはどのようなリスクですか。25字以内で答えなさい。

問六 ―線(3)「それ」、(4)「それ」が指している内容を(3)は15字、(4)は16字で探し、それぞれぬき出しなさい。

問七 

--

に入る言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 判断力      イ 理解力      ウ 包容力

エ 集中力      オ 行動力

問八 ―線③「食べものの選択基準がいまの日本人はおかしくな

っています」とありますが、筆者はどのような点を言っているのですか。サケの例について30字以内で答えなさい。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

《二》までのあらすじ》中学二年生の春野 暁は、転校した先の学校で女子バスケットボール部を作る。新チームで初めて挑んだ夏の公式戦では、大差で負けてしまった。

「ねえ、千里の行も足下に始まる、っていう老子の教えを知ってる？」

誰もなにも話さない中、欣子だけが場を盛り上げようと喋り続けていく。

「A、という意味よ。うちのチームにとって、今日はまだ初めの一步でしょう？ これからまだまだ先は長いわけで、ここで落ち込んでいたら始まらないわよ」

通りを走る車のエンジン音の中に、欣子の声がかき消される。

「……なによ。どうして無視するの」

欣子はその場で足を止める。

「ごめん。聞いてるよ。ただなんて返せばいいか……わからなくて」

暁は振り返り、欣子に謝った。欣子が怒るのも無理はない。

試合会場に着いてから、ボールケースの準備や救急箱、アイシングの用意、水筒への水分の補充などすべて欣子がひとりでやってくれていたのだ。それなのに試合が終わるとみんな不機嫌に黙り込んだまま、なにも話そうとはしない。

「暗い顔してたって、なにも解決しないじゃない？ 失敗に向き合っただけ、敗因を分析して、勝つための対策を立てていけないと。それから私たち、中林先生にお礼を言うのも忘れてた。ボールを片付け

たり荷物を運んでもらったり、いろいろ手伝ってもらったのに」

「うるさいっ。いまごちやごちや言わないでよっ」

先頭を歩いていた亜利子が、肩に掛けていたボールバッグを地面に叩きつける。

「さつきからほんと鬱陶しい。失敗に向き合っただけ分析しろって？」

うちは失敗なんてしてないから。それに中林先生はバスケットのことなんもわからないだし、手伝いくらい当然でしょ、顧問なんだから」

亜利子の暴言に、薫とリモが顔をしかめる。

「ちよつとやめようよ、こんなところで喧嘩なんて。それにいまの中林先生に対する発言は失礼だよ。休日にわざわざ出てきてもらってるのに」

とりあえず亜利子を制したが、この場をどうまとめればいいのかわからず語尾は頼りない。

「ねえ、このまま学校に戻らない？ そこでちよつとミーティングしようよ。ね、亜利子、ミニバスの時もミーティングは念入りにやったよねえ」

亜利子をなだめるのは慣れているのか、七美が落ち着いた様子で「ねえ暁。まだ四時前だもん、学校に戻ろう」と提案してきた。

学校に戻ると、暁たちはいつも練習しているグラウンドの西側の隅、石灰で引いたコートの中に腰を下ろした。グラウンドでは陸上部がまだ練習をしていて、その中の何人かが薫をちらちらと見ていく。

「じゃあこれからミーティングを始めます」

暁が口を開くと、六人の視線がようやく交差する。学校までの道中や青梅線の電車の中でも互いに顔を背け、それぞれどこか違う所

に焦点を合わせていたので、顔を合わせると気まずい雰囲気の流れた。

「それじゃ、まず一人ずつ今日の反省点を挙げていきたいと思えます。自分自身のことでもチーム全体のことでも気づいたことなんでもいいから。じゃ、まずはキャプテンのあたしから」

六人が集まっていて、これだけ静かなのも珍しかった。話す前に喉は深く息を吸い込み、ふと空を見上げた。にわか雨でも降るのか、強い風が吹いていて雲の流れが速い。

「あたしはとにかく、この六人で初めて試合ができたことが収穫だと思ってる。勝ち負けは関係なく……もちろん勝ちたかったけど、でもうちはまだ新しいチームだから、大会に出場したことに意味があったと思ってる」

他にも言いたいことはあったけれども言葉にできず、喉はそれだけを口にして隣に座るリモに続きを託した。自分の思いがうまく伝わったかどうか、みんなの表情からは読み取れない。

「今日負けたのは私が下手だったから。ルールも覚えきってなくて、試合の途中からなにがなんだかわからなくなってきた……ほんとにごめんなさい」

リモは力なくうな垂れたまま「ごめんなさい」を繰り返した。本当は時々、みんながなにを言っているのか意味がわからない時がある。これまで恥ずかしくて内緒にしていたけれど、自分は完全に日本語を理解しているわけではない。小学校の途中で不登校になり、中学にも通っていないかった。だから難しい言葉を早口で告げられた時はわかったふりをして「オッケー」と答えていた。「亜利子の指示、わからないことが何度もある……」リモが覚悟を決めたよう

に顔を上げ、大きく見開いた両目から大粒の涙をこぼす。浅黒い頬に涙がたつていく。

「私、いいかな」

リモの右隣に座る薫が小さく手を挙げ、五人の視線が薫に集まる。

「自分は今日の東台戦、二人も初心者がいるチームとしては健闘したと思ってる。ただ個人的にはすごく悔しい。なにもできない自分が情けないあまりに一瞬、……たった一度だけ、陸上に戻ろうかと思ってしまった。試合中にそんなことを考えてしまったことがなよりの反省点で、みんなに謝りたい。でもいまは全然諦めてない。いつかりモと自分でゴール下を完全に制してみせる。だからもう少しだけ自分たちの成長を待っていてほしい」

泣くなりモ、頑張るしかない、とりモの頭に薫が手を載せた。頭を優しく撫で、そのままゆっくりと手を下ろし背中を擦る。

「私は、いまのチームで試合するのはまだ早かったかなあって、薫ちゃんの言うように、二人とも初心者なのにいきなり試合なんて、奥村先生も無茶ぶりするなあって。でも私たち、まだまだこれからよね。ここでめげちゃだめ。頑張ればなんとかなる」

七美がいつものふわりとした笑顔を見せると、欣子もBと前向きな意見を口にし、具体的な練習方法をいくつか挙げた。少しずつ硬かった空気がほどけていく。リモも泣きやみ、それぞれの意見に真面目な顔で頷いていた。

「次、うちが言わせてもらう」

亜利子の尖った声が、ようやく温まってきた円陣に冷たい空気を戻す。



「今日の試合の一番の反省点は、③ポイントガードのひとりよがりなプレー。試合中にキレて、周りが見えなくなつて試合をぶつ潰したのは、司令塔がクソだったから。七美はわかつてたよね。うちの顔を見て、なにか言いたそうにしてたから。だからみんな、ちゃんとうちを責めてよ。そうしないとうちら、強くなれないし」

リモごめん、あんたはよくやってた、ダメなのはうちのほうだから、と亜利子はリモの肩をつかみ「酷いこと言つてごめん」と頭を下げた。リモの大きな目に再び涙が溜まつていく。

「あの、えつと……そうだね」

意外な展開に、どうまとめようかと口ごもつてしていると、

「それから欣子」

と亜利子が言葉を遮る。

「失敗に向き合つて敗因を分析して、勝つための対策を立てていく。

……さつきはごめん。あんたの言う通りだと思う。うち、あんたにも酷いこと言つた。お茶とか氷とか全部用意して運んでくれたの、

あんたなのに……。試合会場までの道順も全部調べてきてくれて、

なののうちはお礼も言わなかった」

「別にいいわよ、気にしてないから。それに私は楽しんでマネージ

ヤー業をしてるの」

余裕たつぷりに欣子が微笑むと、亜利子も顔をしかめて笑い返す。

バスケットで一つのプレーを作り上げるには、細やかな技術を積み上げていかなくてはいけない。地道な練習を繰り返して、こつこつと。

それと同じでチームワークもメンバーの思いを積み重ねていかなく

ては成立しないのかもしれない。こつこつと、地道に。円陣の中に

心地よい風が吹き抜けていく。今日負けたことで、みんながもう一

度、強くなるうとしていた。

「あたしは今日いちばんの反省点は、みんなが自分の考えを口に出さないことだと思つたよ。もっと率直に、考へてることを口にしたほうがいいんじゃないかな。伝える力。聴く力。その両方がうちのチームには絶対的に欠けてるのかもしれない。うん……。それからもうひとつ、今日のあたしはキャプテンとしての言葉をなにも持たなかった。自分自身の④ふがいなさに苛立つてただけだった。誰よりも周りが見えてなかったのは、あたし自身だと思う」

キャプテンとしての自覚がなかった、と暁は頭を下げる。自分はキャプテンとはいえ、誰に推薦されたわけでもない。女バスを立ち上げた張本人だからという理由で任されているだけだ。正直なところチームを取り仕切れる自信など微塵もない。⑤自分なんてキャプテンの器ではない。適任者がいればすぐにでも代わつてほしい。そんな消極的な気持ちでこの二か月間、キャプテンを務めてきたのだと、暁は打ち明ける。

「暁が辞任するんだつたら、うちがキャプテンやってもいいけど？」

亜利子が小鼻を膨らませて身を乗り出してくる。

「違うの、亜利子。いまは誰かに代わつてほしいと思つてるわけじゃないんだ。だからこれからの春野暁を見てほしいってことを宣言

しておこうと思つて」

なにももつていいキャプテンなのか、正直なところわからない。

でも練習でも試合でも、苦しい時にチームのみんなが自分を見てく

れるような、そんな存在になりたいと暁は語つた。

(藤岡陽子『跳べ、暁！』)

問一 Aに入る言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 千回は足下を確認して進むのがよい
- イ 足下ばかり見ていると前進できない
- ウ 自分の足下に注意する必要がある
- エ 遠い旅路も足下の一步から始まる

問二 —線①「二人も初心者がいる」とありますが、初心者は誰と誰ですか。次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 暁 イ リモ ウ 亜利子
- エ 七美 オ 薫

問三 Bに入る言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言語道断 イ 理路整然
- ウ 右往左往 エ 無我夢中

問四 —線②「尖った声」とありますが、その説明として適当なものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 喜んでる声 イ 怒ったような声
- ウ 悲しそうな声 エ 楽しんでいる声

問五 —線③「ポイントガード」とはバスケットボールにおける役割の名前ですが、この役割を務めていたのは誰ですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 暁 イ リモ ウ 亜利子
- エ 七美 オ 薫

問六 —線④「ふがいなさ」と近い意味の言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おとなしき イ いそがしき
- ウ なさげなさ エ ぎこちなさ

問七 —線⑤「自分なんてキャプテンの器ではない」について次の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) 「キャプテンの器ではない」とはどのような意味ですか。次の文のに入る言葉を10字以内で考えて答えなさい。

キャプテンに。

- (2) キャプテンに必要なのはどのようなことだと、暁は考えていますか。本文の言葉を使って30字以内で答えなさい。

